

平成8年度 BELCA賞 LLB部門 表彰作品

弘前市民会館・弘前市立博物館

所有者 弘前市
設計者 株式会社 前川建築設計事務所
施工者 (弘前市民会館)
清水建設 株式会社
三機工業 株式会社
株式会社 朝日工業社
株式会社 西原衛生工業所
(弘前市立博物館)
清水建設 株式会社
管理者 弘前市教育委員会
竣工 弘前市民会館：1964年5月1日
弘前市立博物館：1976年7月31日



古い歴史を持つ津軽弘前には前川國男の建築作品が8点あり、第二の故郷ともいうべきこの地の弘前城址の西南の角に、昭和39年竣工の弘前市民会館と市立博物館が寄り添うように建つ。

市民会館は、当時きわめて斬新なデザインであった打放しコンクリートの壁面が30余年の長い歳月を経過しているとは思えないような質感を維持している。

パネル型枠の組み合わせによるリズムカルな打放しの表面と、入りくんだスチールサッシュの表情は当時のままであり、又他の外回りの仕上げも材質を維持するための雪害対策等の寒冷地工法を徹底的に検討した仕掛けの成果が見える。

隣接する博物館は12年後の作品であるが、打放しコンクリートの再考からレンガ色の打ち込みタイルの外壁であり、寒冷地工法を徹底、20年経過した今でも重厚さと威厳を保つ。

各々の建物はエントランスホールを介して遠くには名峰岩木山を、近くには史跡の常緑の松を借景として望むことができ、当時のコンセプトを維持している。

市民会館は平成5年に建物総合調査を行い、30年の長い歳月の経過で社会環境の変化に対応出来なくなった点や、建築及び設備の不具合を克明に調査するとともに、それらの改良策を立案している。以降、この改良・改修計画は、順次実行されており施設のもつイメージを修繕改修後も可能な限り保持し、施設の性能、機能について、将来の進歩に十分対応出来る改修を押し進めている。

博物館は20年の経過であるが建築及び設備とも改修は一切行っておらず、竣工時の機能が見事に維持管理されている。

これは竣工した建物を維持管理する弘前市の、郷里の建築家前川國男への深い理解と、建築の設計意図を具現化した設計事務所の熱意、そして設計意図を忠実に現場で実現させた施工会社の努力の賜物であり、そこには三位一体の深い結びつきが感じられた。

設計者の前川國男は生前「弘前に建築をつくるときは、健康優良児のようなものをつくりたいね、なんといってもボクの母方の里だから」と話していたという。

周辺の環境にすっかり溶け込んだ二つの建物は、存在感があり地域の人々に親しまれ誇りとなっているものであり、BELCA賞の受賞に相応しいものと思われる。